

FUJITSU Software

Interstage Application Server

アンインストール

Windows(64)

B1WS-1011-02Z0(00)
2013年7月

まえがき

本書の目的

本書は、Interstageのアンインストール方法について説明しています。
本書は、Interstageのサーバパッケージのアンインストールを行う方を対象に書かれています。
クライアントパッケージのアンインストールについては、クライアントパッケージのアンインストールガイドを参照してください。

前提知識

本書を読む場合、以下の知識が必要です。

- ・ 使用するOSに関する基本的な知識

本書の構成

本書は以下の構成になっています。

第1章 アンインストール

Interstageのアンインストール手順について説明します。

商標

- ・ Microsoft、Active Directory、ActiveX、Excel、Internet Explorer、MS-DOS、MSDN、Visual Basic、Visual C++、Visual Studio、Windows、Windows NT、Windows Server、Win32は、米国Microsoft Corporationの、米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。
- ・ OracleとJavaは、Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の米国およびその他の国における登録商標です。文中の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。
- ・ その他の記載されている商標および登録商標については、一般に各社の商標または登録商標です。

輸出許可

本ドキュメントを非居住者に提供する場合には、経済産業大臣の許可が必要となる場合がありますので、ご注意ください。

著作権

Copyright 2004-2013 FUJITSU LIMITED

2013年7月 第2版 2012年8月 初版

目次

第1章 アンインストール.....	1
1.1 アンインストール前の作業.....	1
1.2 アンインストール作業.....	3
1.3 アンインストール後の作業.....	7
1.4 アンインストール時のトラブル対処方法.....	9

第1章 アンインストール

本製品のアンインストール手順について説明します。

1.1 アンインストール前の作業

アンインストールを行う前に、以下の作業を行ってください。

- [アプリケーションの停止](#)
- [資源の退避](#)
- [Interstage ディレクトリサービスのアンインストール前作業](#)
- [JTSのアンインストール前作業](#)
- [Interstage Java EEのアンインストール前作業](#)
- [その他](#)

アプリケーションの停止

- すべてのアプリケーションを終了させてください。

資源の退避

- 必要に応じ環境資源を退避してください。本製品の環境資源の退避方法については、“運用ガイド(基本編)”を参照してください。
- 旧システムの環境資源を移行する場合には、“移行ガイド”を参照してください。
- 業務構成管理機能の情報を次回のインストール時に引き継ぐ場合は、バックアップコマンドを利用してバックアップしてください。次回インストール後にリストアすることで、情報を引き継ぐことができます。

Interstage ディレクトリサービスのアンインストール前作業

Interstage ディレクトリサービスを使用している場合、アンインストールする前に、以下の作業を行ってください。

1. Interstage ディレクトリサービスのリポジトリが動作していないことを、ireplistコマンドを使用して確認します。

[使用例:動作中の場合]

```
> ireplist <RETURN>
No Repository Status
-----
1 rep001    Active
```

[使用例:未起動の場合]

```
> ireplist <RETURN>
No Repository Status
-----
1 rep001    Stopped
```

2. リポジトリが、動作している場合は、irepstopコマンドですべてのリポジトリを停止します。

[使用例:リポジトリ名:rep001の場合]

```
> irepstop -R rep001 <RETURN>
```

- 必要に応じてリポジトリをバックアップします。

バックアップ・リストアの対象ファイル、手順は、“運用ガイド(基本編)”の“メンテナンス(資源のバックアップ/他サーバへの資源移行/ホスト情報の変更)”を参照してください。

- すべてのリポジトリを、irepconfigコマンドを使用して削除します。

[使用例:リポジトリ名:rep001の場合]

```
>irepconfig delete -R rep001
```

JTSのアンインストール前作業

データベース連携サービスのサービスを停止する前に、以下の作業を行ってください。

- otsaliveコマンドで、OTSシステムおよびリソース管理プログラムが動作していないことを確認します。

[使用例:動作中の場合]

```
> otsalive <RETURN>
-----
OTS system          START-TIME 2007/01/01 10:17:26
OTS Resource  resourcedef1  START-TIME 2007/01/01 11:50:12
OTS Resource  resourcedef2  START-TIME 2007/01/01 12:50:12
-----
```

[使用例:未起動の場合]

```
> otsalive <RETURN>
-----
Nothing
-----
```

- OTSシステムが動作している場合は、otsstopコマンドでOTSシステムを停止します。
また、リソース管理プログラムが動作している場合は、otsstoprscコマンドでリソース管理プログラムを停止します。

```
> otsstop <RETURN>
> otsstoprsc -n resourcedef1 <RETURN>
> otsstoprsc -n resourcedef2 <RETURN>
```

注意

isstartコマンドを使用して運用している場合は、isstopコマンドで停止してください。

- データベース連携サービスをインストールしたフォルダ内のユーザ資産の退避/削除を行います。ダンプファイルを出力した場合は、そのダンプファイルを削除します。
ダンプファイルは、以下のフォルダ配下(“C:¥Interstage”にインストールした場合)に格納されています。

```
C:¥Interstage¥ots¥var
```

- CORBAサービスから不要なサーバアプリケーションの情報を削除します。
削除しない場合は、データベース連携サービスの再インストール後、OTSシステムの動作環境の設定(otssetupコマンド)、リソース管理プログラムの登録(otssetrscコマンド)、サーバアプリケーション(CORBAアプリケーション)の登録を行う必要はありません。
— OD_impl_instコマンド/OD_or_admコマンドで、登録したサーバアプリケーションの情報を削除します。

- `otssetrsc`コマンドで、登録したリソース管理プログラムの情報を削除します。

```
>otssetrsc -d -n resourcedef1 <RETURN>
>otssetrsc -d -n resourcedef2 <RETURN>
```

- `otssetup`コマンドで、OTSシステムの動作環境を削除します。

```
>otssetup -d <RETURN>
```

Interstage Java EEのアンインストール前作業

- クラスタサービス連携のため、Java EE共通ディレクトリを共用ディスクに作成して複数ノードから参照している場合、対象ノードを運用ノードに変更してから、アンインストールを行ってください。

その他

- ターミナルサービスが実行モードの状態の場合は、以下のコマンドを実行して、ターミナルサービスをインストールモードに変更してください。
`CHANGE USER /INSTALL`
- InterstageとSystemwalker CentricMGR 運用管理サーバまたは、Systemwalker Centric Manager 運用管理サーバを同一サーバ上にインストールしている場合は、Systemwalker Centric Managerのすべての機能を停止してください。停止方法の詳細は、Systemwalker Centric Managerのマニュアルを参照してください。
- ServerMachineMonitorおよびServerMachineMonitorAgentをサービスに登録している場合、`isunsetsmm`コマンドおよび`isunsetsmma`コマンドを使用して削除してください。コマンドの詳細は、「リファレンスマニュアル(コマンド編)」を参照してください。

1.2 アンインストール作業

以下について説明します。

- [Interstageのアンインストール時の注意事項](#)
- [Interstageのアンインストール](#)
- [CORBAサービスのアンインストール時の注意事項](#)
- [Interstage JMXサービスのアンインストール時の注意事項](#)
- [Interstage Java EEのアンインストール時の注意事項](#)

Interstageのアンインストール時の注意事項

アンインストール時には、以下に注意してください。

- コンピュータの管理者もしくはAdministratorsグループのメンバでアンインストールを行ってください。
- コンピュータ起動直後にアンインストールする場合、サービスが起動処理中のために、アンインストールが失敗することがあります。この場合、時間をおいて再度アンインストールを行ってください。
- アンインストール途中に何らかの原因で強制終了した場合、以後アンインストールを完了することができないことがあります。この場合、インストールDVD-ROMドライブの直下(ドライブEの場合、E:\HowToDel.txtになります)の“HowToDel.txt”を参照し、本製品の資産・情報を手動で削除してください。
- アンインストール中に「キャンセル」ボタンを実行することはできません。

- インストール後、すぐにアンインストールを行った場合、アンインストール画面ではなく、インストール画面が表示される場合があります。この現象はインストール完了後、タスクバーにインストーラのタスクが残った状態のままアンインストールを実行することで発生する可能性があります。この場合、インストール画面を終了し、再度アンインストールを実行してください。
- 本製品のインストールフォルダ配下に暗号化属性が設定されている場合、暗号化を行ったユーザでアンインストールを行ってください。以下に暗号化のユーザの確認方法を示します。
 - “本製品のインストールフォルダ¥ODWIN¥uninstall¥setup.exe”を右クリックし、[プロパティ]をクリックします。
 - [全般]タブの属性にある[詳細設定]をクリックします。[詳細設定]が存在しない場合は暗号化属性は設定されていません。
 - “内容を暗号化してデータをセキュリティで保護する”チェックボックスがオンの場合は、[詳細]をクリックし、ユーザ名に表示されるユーザでログインしアンインストールを行ってください。オフの場合は暗号化属性は設定されていません。

Interstageのアンインストール

以下の方法でアンインストールを行ってください。

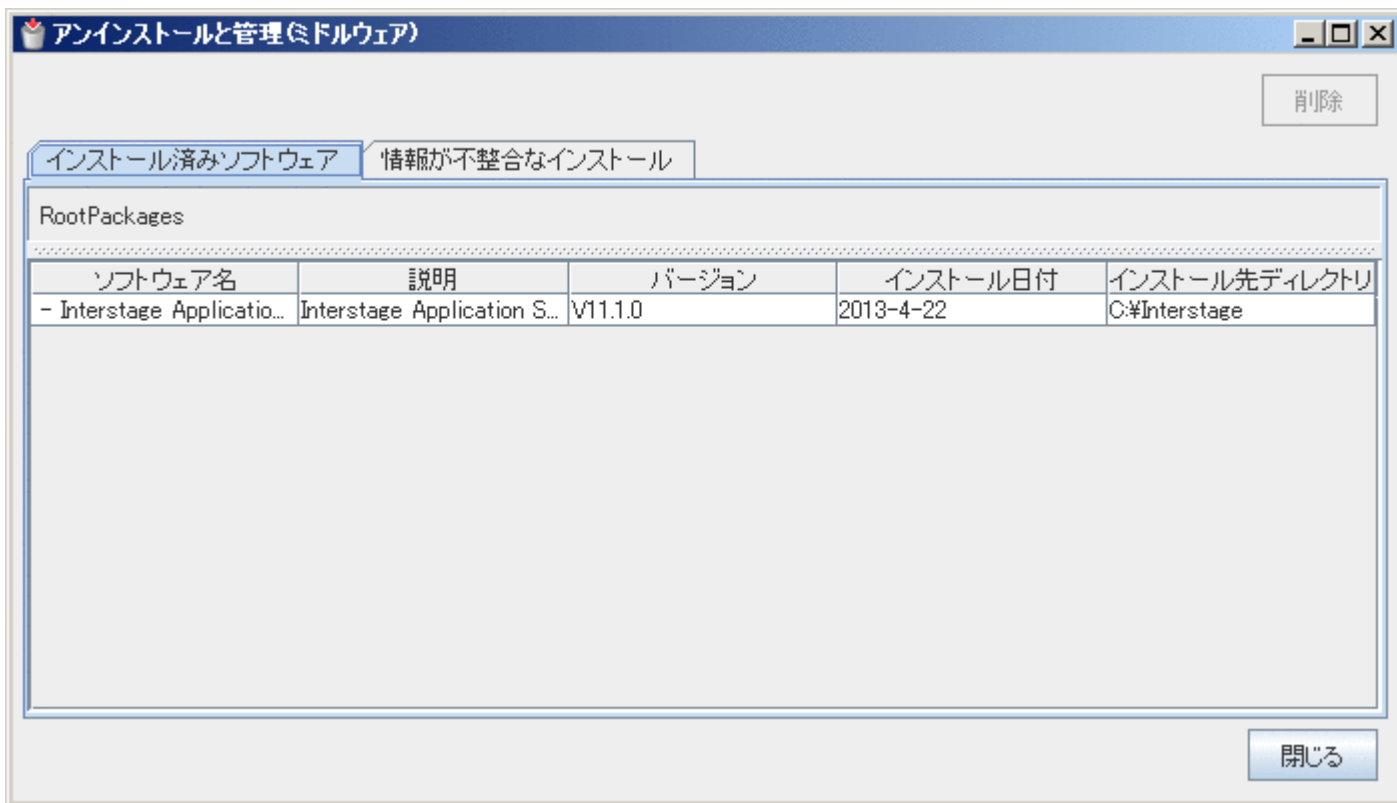
1. [Windows(R) 8、Windows Server(R) 2012以外の場合]

スタートメニューの[すべてのプログラム (注)] > [Fujitsu] から“アンインストールと管理(ミドルウェア)”を実行してください。

注) Windows Server(R) 2003の場合のメニュー名です。オペレーティングシステムによっては名称が異なることがあります。

[Windows(R) 8、およびWindows Server(R) 2012の場合]

アプリ画面の“アンインストールと管理(ミドルウェア)”を実行してください。



- “- Interstage Application Server Standard-J Edition”(ソフトウェア名)を選択して、[削除]をクリックすると次の画面が表示されます。製品名を確認して問題なければ[アンインストール]をクリックしてください。



3. アンインストールの完了後にコンピュータを正常な状態にするためには、コンピュータを再起動する必要があります。本製品のアンインストール画面および“アンインストールと管理(ミドルウェア)”を終了させてから、再起動を行ってください。



CORBAサービスのアンインストール時の注意事項

本製品に含まれるCORBAサービスは、以下の製品からも使用されます。CORBAサービスが他製品で使用されている場合、本製品のアンインストールでは削除されません。

- Systemwalker CentricMGR 運用管理サーバ
- Systemwalker Centric Manager 運用管理サーバ

- Interstage Security Director

本製品をアンインストールした後、CORBAサービスが残っている場合、以下の手順でアンインストールすることができます。

1. 使用している製品の確認

以下の製品がインストールされているか確認してください。インストールされている場合は、CORBAサービスをアンインストールしないでください。

- Systemwalker CentricMGR 運用管理サーバ
- Systemwalker Centric Manager 運用管理サーバ
- Interstage Security Director

なお、上記の製品がいずれもインストールされていない場合や、上記の製品の運用上の理由などでCORBAサービスのアンインストールが必要となる場合、次の手順へ進み、アンインストールしてください。

2. サービスの停止

[コントロールパネル] > [管理ツール] > [サービス]から“OD_start”サービスを停止します。

3. アンインストール

[Windows(R) 8、Windows Server(R) 2012以外の場合]

スタートメニューの[すべてのプログラム (注)] > [ObjectDirector]から“ObjectDirector Uninstall”を実行し、アンインストールしてください。

注) Windows Server(R) 2003の場合のメニュー名です。オペレーティングシステムによっては名称が異なることがあります。

[Windows(R) 8、およびWindows Server(R) 2012の場合]

アプリ画面の“ObjectDirector Uninstall”を実行し、アンインストールしてください。

[コントロールパネル] > [アプリケーションの追加と削除]メニューで表示されるアプリケーション一覧から“ObjectDirector Server”を選択し、“追加と削除(R)”をクリックしてアンインストールすることもできます。

Interstage JMXサービスのアンインストール時の注意事項

Interstage JMXサービスをアンインストールした場合、以下のレジストリ配下に情報が残っている場合があります。

- HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥JavaSoft¥Prefs¥com¥fujitsu¥triole¥nf¥event

上記レジストリはシステムの動作には影響ないため、対処は必要ありません。また、上記レジストリに登録された情報は以下の製品でも使用されます。以下の製品がインストールされている場合はレジストリを削除しないようにしてください。

- Systemwalker Resource Coordinator
- ETURNUS SF Storage Cruiser
- Server System Manager

Interstage Java EEのアンインストール時の注意事項

クラスタサービス連携のため、Java EE共通ディレクトリを共用ディスクに作成して複数ノードから参照している場合、以下の手順でアンインストールを行ってください。

1. 作成済みのJava EE共通ディレクトリを参照してJava EEの初期化を行ったノード

2. Java EE共通ディレクトリの資源を作成したノード

1.3 アンインストール後の作業

アンインストールを行った後に、以下の作業を行ってください。

- [フォルダの削除](#)
- [本製品を再インストールする場合の作業](#)
- [システム環境変数PATH、CLASSPATHに関する作業](#)
- [Interstage Java EE 6をアンインストールした場合の作業](#)
- [その他の作業](#)

フォルダの削除

• 以下のフォルダが残っている場合は、削除してください(以下はC:¥Interstageにインストールしていた場合)。

- C:¥Interstage¥etc
- C:¥Interstage¥var
- C:¥Interstage¥var¥rc
- C:¥Interstage¥var¥repository (注1)
- C:¥Interstage¥F3FMihs (注2)
- C:¥Interstage¥F3FMahs (注3)
- C:¥Interstage¥jdk6 (注4)(注5)
- C:¥Interstage¥jre6 (注4)(注5)
- C:¥Interstage¥jdk7 (注4)(注5)
- C:¥Interstage¥jre7 (注4)(注5)
- C:¥Interstage¥ODWIN¥etc
- C:¥Interstage¥ODWIN¥var
- C:¥Interstage¥td¥bin
- C:¥Interstage¥td¥etc
- C:¥Interstage¥td¥isp
- C:¥Interstage¥td¥var (注6)
- C:¥Interstage¥F3FMisjee
- C:¥Interstage¥F3FMisje6 (注9)
- C:¥Interstage¥F3FMpcmi
- C:¥Interstage¥td¥trc
- C:¥Interstage¥MessageQueueDirector
- C:¥Interstage¥Enabler
- C:¥Interstage¥EJB¥var
- C:¥Interstage¥EJB¥etc

- C:\Interstage\eswin\etc
- C:\Interstage\eswin\var
- C:\Interstage\Extp\etc
- C:\Interstage\F3FM\so\ssocm
- C:\Interstage\F3FM\so\soatcsv (注7)
- C:\Interstage\F3FM\so\soatcag (注7)
- C:\Interstage\F3FM\so\soofsv (注7)
- C:\Interstage\F3FM\so\soatzag (注7)
- C:\Interstage\GUI\trc
- C:\Interstage\J2EE
- C:\Interstage\jms
- C:\Interstage\jms\etc
- C:\Interstage\jms\var
- C:\Interstage\ots\etc (注8)
- C:\Interstage\ots\var (注8)
- C:\Interstage\IREP
- C:\Interstage\IREPSDK

注1) 業務構成管理機能の“リポジトリの格納先”を変更した場合は、そちらを削除してください。また、次回インストール時に、前回の情報を再利用する場合は、本フォルダは削除しないでください。次回インストール時に同じフォルダを指定することで、情報を引き継ぐことができます。

注2) Webサーバ(Interstage HTTP Server)の環境定義ファイルおよびログファイルなどが保存されています。必要に応じて削除する前にフォルダ配下のファイルを退避してください。

注3) Webサーバ(Interstage HTTP Server 2.2)の環境定義ファイルおよびログファイルなどが保存されています。必要に応じて削除する前にフォルダ配下のファイルを退避してください。

注4) JDK/JREを別フォルダにインストールした場合は、そちらを削除してください。

注5) 本製品をインストールした後に、他のアプリケーションをインストールあるいはアップデートすると、JDKあるいはJREのインストール先にファイルがコピーされる場合があります。

このようなファイルは、本製品をアンインストールしても、削除されずに残ります。この場合は、アンインストール後に、該当ファイルを削除してください。

例:本製品をインストール後に、Windows Media Playerをアップデートすると、以下のフォルダにWMPNS.jarがコピーされます。

- JDKがインストールされていた場合
[JDKインストール先]\jre\lib\applet
- JREがインストールされていた場合
[JREインストール先]\lib\applet

注6) Systemwalker CentricMGR 運用管理サーバまたは、Systemwalker Centric Manager 運用管理サーバがインストールされている場合はC:\Interstage\td\var\IRDBは削除しないでください。

注7) Interstage シングル・サインオン(注7)の環境定義ファイルおよびログファイルなどが保存されています。必要に応じて削除する前にフォルダ配下のファイルを退避してください。

注9) Java EE 6の環境定義ファイルおよびログファイルなどが保存されています。必要に応じて削除する前にフォルダ配下のファイルを退避してください。

注8) フォルダ配下にファイルまたはフォルダが存在する場合は、それらも含めてすべて削除するようにしてください。

本製品を再インストールする場合の作業

- ・ アンインストール後に、本製品を再インストールする場合は、本製品の再インストール前にコンピュータを再起動する必要があります。また、再インストールする場合は、前回のインストール資源を削除してからインストールしてください。

システム環境変数PATH、CLASSPATHに関する作業

- ・ システム環境変数のPATH、CLASSPATHに手動でパスを設定した場合、アンインストールしてもパスが残る場合があります。必要のない場合は、削除してください。
- ・ システム環境変数のCLASSPATHに“.”が残ることがあります。必要に応じて削除してください。

Interstage Java EE 6をアンインストールした場合の作業

- ・ Interstage Java EE 6のアンインストール後に、サービスに「Interstage PCMI(isje6)」が残存している場合は、scコマンドを以下のように実行して、サービス「Interstage PCMI(isje6)」を削除してください。

```
sc delete "Interstage PCMI(isje6)"
```

- ・ Interstage Java EE 6のアンインストール後に、Java EE 6共通ディレクトリが残存している場合は、必要に応じて退避を行ったうえで削除してください。

その他の作業

- ・ 本製品は“Microsoft Visual C++ 2005 再頒布可能パッケージ”を使用しています。必要に応じて、再頒布パッケージを削除してください。再頒布パッケージはWindows(R)の“プログラムの追加と削除”で削除することができます。
- ・ ターミナルサービスがインストールモードの状態の場合は、以下のコマンドを実行して、ターミナルサービスを実行モードに変更してください。

```
CHANGE USER /EXECUTE
```

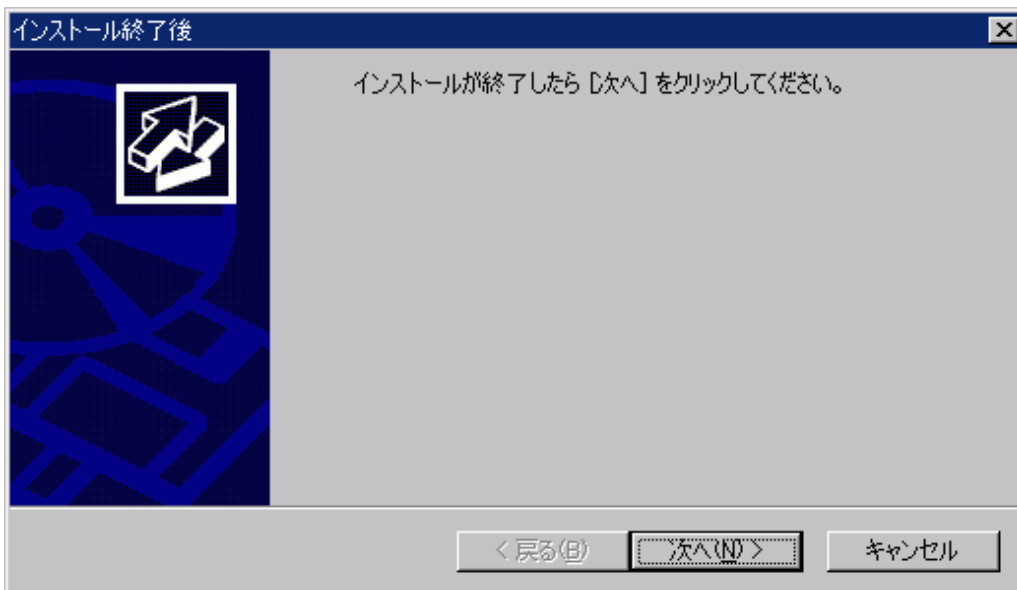
1.4 アンインストール時のトラブル対処方法

アンインストールで不適切な画面が表示された場合の対処

ターミナルサービスが実行モードの状態の本製品のアンインストールを実行した場合、アンインストール時に以下の画面が表示されることがあります。この場合、以下の手順に従って本製品のアンインストールを完了させてください。

1. コンピュータの再起動を促す画面が表示されるまでアンインストール作業を行います。

- 表示されている下記の画面の[次へ]をクリックします。



- 下記の画面が表示されたら[完了]をクリックします。



- コンピュータの再起動を促す画面の[完了]をクリックします。

“アンインストール中に問題が発生しました。(OD)”が表示された場合の対処

本製品のアンインストール中に、“アンインストール中に問題が発生しました。(OD)”が表示された場合、本製品のインストールフォルダに暗号化属性が設定されている可能性があります。以下に対処方法を示します。

- “アンインストール作業”の“Interstageのアンインストール時の注意事項”に記載されている暗号化のユーザの確認方法について参照し暗号化属性を設定したユーザでログインします。
- 本製品のインストールフォルダ¥ODWIN¥uninstall¥setup.exeを実行します。表示に従い、アンインストールを行ってください。
- 本製品のインストールフォルダ¥ODWINフォルダが残っている場合は削除してください。